

今後の広聴活動（井戸ばた会議等）について 学習会を開催しました

井戸ばた会議を過去8回開催した中で次のような改善点をいただいています。

○参加者の固定化
○テーマもメンバーも変わりながらなので議論が

深まらない
○テーマ別のグループでじっくり話したい

○井戸ばた会議で話し合われたことが、どう町政に反映されたのか見えにくい

○議員個々の考え方ももっと聞きたい
これらを踏まえ、広聴機能のさらなる強化に向けた次の展開を考えようと6月21日に学習会を開催しました。

講師は今回もSDGs 未来都市関係でお世話になっている枝廣淳子氏です。

「民意を反映するとは？」という大きなテーマから始まり、さらに「誰の声を聞



けばいいのか？」などの問いについて対話を行いました。

「最初の声が民意なのか？」という問いでは、民主党政権時代にエネルギー政策を巡って実施した「討論型世論調査」の事例紹介があり、小グループでの討論と専門家との質疑応答を繰り返すうちに、討論前後でアンケート結果が変わったそうです。

ある施策を推進しようとする側が、推進目線と都合の良い情報提供だけしてアンケートやパブリックコメントなどで民意を把握する場合がありますが、そうではないやり方として大変参考になります。

「反映って何だろう？」という問いでは、民意を反映して将来への道筋を描く場合に、単線ではなく複線型のシナリオを描いたエネルギー基本計画の事例紹介もありました。一つだけのシナリオでは限られた民意しか反映できませんが、シナリオを複数化することで様々な民意を散りばめることができます。下川町でもぜひ取り入れたい手法です。

また町民が要求・陳情型から提案型へと変化することの大切さについても話題になりました。そ

うした変化を促進する上でどう議会が機能していくかが問われています。

「テーマ別のグループでじっくり話したい」という町民の方の声に応える方法については

○議会側でテーマを設定して参加者を募る方法

○集まった人たちでいくつかのテーマを決め、テーマ毎のグループに別れ、随時移動OKで話し合う方法（OSTIIオープンスペーステクノロジー）

○町民グループの会合などに議会メンバーが参加する出前広聴（出前基準を透明化して公平性を保ちながら、軽めの出前は2人以上で分担しながら）というような具体例の提案もありました。

今回の学びを踏まえて、次の具体的なチャレンジへつなげていきます。引き続き町民のみなさんのご協力をお願いします。